



# 序

2020年、東京オリンピック開催予定だったこの年が、このようなコロナ禍で過ぎることになることを、誰が予想できたであろうか。かくいう私たちも大のスポーツ観戦好きで、チケットの購入こそしなかったが、テレビ観戦を楽しみにしていた。しかし、2020年はまさに新型コロナウイルスが吹き荒れ、stay homeとなり、時間を待てる診療は延期を余儀なくされ、乳がん検診は一時期中止となった。世の中では、在宅勤務が広まりいろいろな変更が生じたが、本書の進行においても、すべての原稿をネット上で拝見することになり、編集者と直に話すことができず、今までに出版してきた書籍の編集とはかなり違った様相を呈することになった。角田と名本は、東京と福岡という遠隔を結ぶラインのビデオ会議でお互いの意思疎通を図ったこともあった。もともと、本書の企画をいただいたのは、2018年のことであった。このKEY BOOKシリーズはレジデントのバイブルともされ、当院の読影室にも他領域のシリーズが多くそろっているが、その中に乳腺領域を入れていただけるということで、良い本を作ろうといろいろアイデアを検討したことを覚えている。スケジュールの都合で、2019年の日本医学放射線学会で初めて角田、名本、それに編集の栗田氏とで具体的内容を検討した。日常診療で最も頻繁に遭遇する基本を押さえることはきわめて重要であり、その意味では、これまでも乳腺領域で優れた書籍は多いと思う。しかし、かなり稀な疾患まで押さえ、困ったときにはこれをみれば何かのヒントは得られる、というものは少ない。このコンセプトのもとに、各エキスパートの先生方に執筆をお願いし、ご多忙の中、熱の入った原稿をいただくことができた。この本が、手にとってくださるすべての医療者にとって役立つものになり、乳房に何らかの不安を覚え診療を訪れるすべての受診者のために有用となれば嬉しい。

2021年2月現在、ワクチン接種がもうすぐのところまできている。再び私たち医療者が、同じ場所に相まみえ、討論し、これからの診療に明るい光が差すことを心から願っている。

最後になりましたが、本書の執筆をお引き受けいただき素晴らしい原稿をくださった共著者の先生方に、また、私たちの施設で出版に漕ぎつけるまでに多くのサポートをくれたスタッフの皆に、そして、新しい手段にきっと迷いながら作業を続けてくださった学研メディカル秀潤社の栗田氏に心から御礼を申し上げます。

2021年2月

角田 博子  
松林(名本) 路花

